

第24回
外国人による
日本語スピーチコンテスト

2015年1月31日（土）午後1:00～4:30

ところ／県民文化センター小ホール

主催／公益財団法人茨城県国際交流協会

共催／茨城県

＊茨城県教育長賞

アスリ マリアニ（インドネシア出身）

「店長の拳骨」

私は生活費のため、週3日、夕方から4時間働いています。今日お話したいのは、今、働いているお店のことです。

店長は慣れない私の働き振りを見て、すぐに、「だめだよ!」と言いながら頭に拳骨を打つのです。私は、何がダメなのかよく分からないままに「はい、気をつけます」と返事をします。でも、要領を得ていませんので、また間違えます。すると、また「だめだよ!」と拳骨が落ちるのです。「国にいればこんなに怒られなくてすむのにな…」夜1人になると、「お父さんはどうしているかな…」とインドネシアの家族のことを思い出しました。私の国では拳骨は最低な人がされることです。お父さんだってこんなことしたことはないのに、なぜこの人はこんなに怒るのだろう。きっと意地悪な人に違いない、「私の事が嫌いなんだ」と思い始めました。ある日、今度こそは自分自身を守るために、説明しようと思っていました。店長が「ダメだよ!」と言ったとき、私は「いや、でもそれは…」と言い返そうとしました。すると、店長は「でも…って言っちゃだめ!」と言いました。また、次に間違った時も「いや、でも…」と言いかけると、「よく話を聞いて!」と言われました。自分が間違っていないのに、拳骨を打たれて、そのうえ、「でも」と言っただけでこの人、なんのつもりなんだろう。不満な気持ちでいっぱいになりました。

ある日のことです。私は店長の拳骨が痛くないことに気がつきました。「あれ?何か変だなあ…」、いや、そんなはずはない、従業員をいじめる人なんだから、私の勘違いだ。そうに違いない!するとまた拳骨がくるのです。でも痛くありません。「いや、これは慣れてしまったから痛くないんだ…」と思いながら、毎日が過ぎました。そしてその日も、帰るとき、店長はいつものように「お疲れ様です!」と言いました。「拳骨を打つのに、なぜお疲れ様と言えるんだろう」。今まで気づかなかったことに気づいて、理解できなくなりました。

そしてとうとうその日も、「だめだよ!」と拳骨が落ちたのです。今度こそは、と思って、勇気を出して、怒っている店長の顔を見上げました。店長の目は優しく、笑っていました。「店長は怒っていないんだ」とはじめて分かりました。そして、私も笑顔になれました。

「馬には乗ってみる、人には添ってみる」という「諺」を教えてもらいました。理解できるためには、お互いに時間と我慢が必要です。

皆さんも外国人に対して、変だな、いやだなあと感じることがあると思います。しかし少し我慢してその人により添ってみれば、「理解できない」と言う気持ちは変わってくると思います。

「店長の拳骨」は私にたくさんのお話を教えてくれました。今、心から感謝しています。「次の拳骨はどんなことをおしえてくれるかな?」と楽しみです。

「店長、拳骨ちょうだい!」

ありがとうございます。